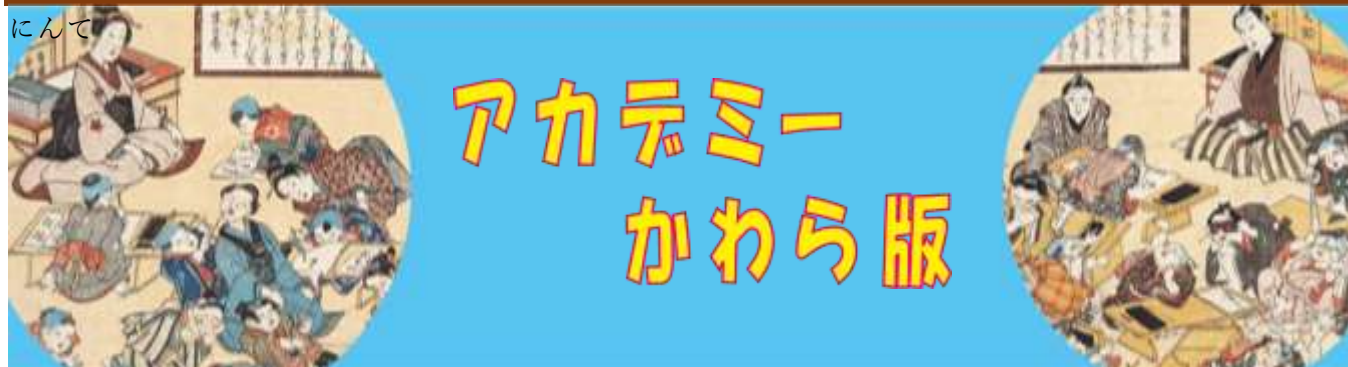


にんて



一寸花里「文学万代の宝（始の巻・末の巻）」より構成

待ちに待った後期が始まりました！！

皆さまは、思いもよらぬ長いお休みを如何がお過ごしでしたでしょうか。

開講に向けての準備期間中、皆さまから励ましのお言葉やお気遣い、お心遣いをいただきましたこと心より感謝を申し上げます。

さて、後期は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大幅な受講申し込みの減少を覚悟いたしておりましたが、皆さまのアカデミーに対する熱い思いを沢山いただき、開講に踏み切りました。2019年度後期の80%のお申し込みをいただき、講座・WSは55講座（1講座・1WS中止）を開講いたします。また、後期はオンラインでの講座を始めます。先を見据え新しい形態の講座として期待されております。初めてのトライとなります。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

☆2020年度後期申込状況（10/1）

受講申し込み	19年度後期	前年同期比
2,849	3,526	80.7%

うちオンライン受講	うち会場受講
487	2,362

受講生の皆様へ

新型コロナウイルス感染防止・対策について

ご協力をお願いいたします。



*事務局でマスク(50円)やフェイスシールド(350円)を実費販売しています。



会場に着いたら

- ① 施設入り口で手を消毒する。
- ② 受付で各自持参の筆記用具で出席簿に〇をつけ、資料があれば1部持って行ってもらう。原則はセルフサービス。
- ③ 部屋へ入るとき、消毒用のペーパーを持って入り、自分の使う机や椅子を拭く。使ったペーパーは所定のゴミ箱へ捨ててもらう。



※詳しくは「座学の会場や野外学習へ出かける際のお願い」をご覧ください。

2020年9月度 理事会開催 —9月9日（水）14時00分

1) 主な審議事項

- 財政難に伴う受講料値上げについて
将来の持続運営に関わる重要事項のため、慎重な意見交換が行われた。その結果「30%を基準にして増額」が決議された。
- 2020年度後期役員の担当講座が報告された。

2) 主な報告事項

- 20年度収支見込みについて
前期全講座の中止、後期対前年同期 80%の受講が見込まれるが、通期では約 2000 万円

の赤字計上が予想される。

- 寄附金のお礼とお願い
目標 1000 万円に対し 500 万円を越す支援をいただいていると報告があった(9月末現在)。
- オンライン講座体験イベントを企画
受講生の体験講座を開催。各回とも多数の受講生の参加を期待。
- 新型コロナウイルス感染防止と対策
後期講座開始に向けて、受講生、講師、関係者に安全対策の徹底を図るよう、喚起を促す要請があった。

■アカデミー初めてのオンライン講座

新型コロナウイルス感染症の影響による会場定員の半減を契機に、アンケートでのオンライン受講の要望を受けて、2020年度後期に初めてのオンライン講座を実施します。後期に実施するのは、①会場での講座をオンラインで同時配信する、②一部の講座で、講師が会場外から講義を配信し、受講生が会場やオンラインで受講する講座です。配信は、ビデオ会議システムzoomを使って行います。また、今後第2波、第3波で会場が使用できない場合、できるだけ多くの講座・WSをオンラインに切り替えることも検討しています。

■オンライン講座の準備とご協力をお願い

8・9月には、藤嶋理事長、学長・副学長の先生方のご協力を経て計4回のオンライン講座体験イベントを開催。延べ約900名の参加がありました。また世話人の方を対象に6回のzoomホスト講習会を行い、多くのご参加を頂きました。オンライン受講お申込みの皆様には、zoomの操作、オンライン講座受講のお願いをお送りしています。試行段階でありご意見を加味しながら改良していきたいと思いますが、各講座・WS世話人の皆様のご支援は不可欠であり、改めて関係各位のご協力をお願い申し上げます。（事業推進部会・稲田）

2020年
8月26日
「知らない事を
学ぶ楽しさ」



——講師 藤嶋 昭先生



ご寄附のお礼とお願い



認定NPO法人かわさき市民アカデミーは、アカデミーの前期講座・WSを全面的に中止し、後期は会場定員を半分にして募集しました。その結果、年間の事業収入は前年度の約35%となり、大変厳しい経営状況となっています。

この厳しい状況の「今」を乗り越えるための必要経費は、政府や自治体の各種支援制度への申請や援助のお願いと諸経費の削減などに努め、危急の事態に備え蓄えてきた定期預金の全てを解約しても、約1,000万円不足します。

受講生の皆さまには、こうした状況をご理解いただき、アカデミー存続のために、これまで以上の温かなご支援をお願いする次第です。今年度を乗り切り、皆さまと共に更なる発展を目指していきたいと思っております。

私たちの学びの場である「かわさき市民アカデミー」の存続へのご寄附をよろしくお願いいたします。
(総務部会長)

下記の原稿は、2020年4月号に掲載を予定していましたが、新型コロナウイルス禍のため発行中止となり、柴田先生の遺稿となりました。先生のご冥福をお祈りし、ここに掲載いたします。

「受講生があふれた！——嬉しさと、つらさと」

前・副学長、柴田鉄治（科学3講座）



1969年、東大の安田講堂に過激派の学生がたてこもった東大紛争が起こったとき、現役

の記者だった私は、取材にあたった。そのとき記者団の相手をしてくれたのが、東大の広報担当、篠原一教授（通称シノピンさん）だった。

そんな縁もあって、かわさき市民アカデミーには、その前身の時代から講師に呼ばれ、南極観測の体験談や科学の話を何度かした。あるとき、折居理事と千田理事が2人そろって現われ、「いのちの科学の講座づくりをやってくれないか」と頼まれ、「喜んでやりましょう」と答えたのが、コーディネーターへの第一歩だった。その後、いまは亡き水流理事から『暮らしの科学』という講座の受講生が少なくて困っている。担当して衣替えし

てくれないか」と頼まれ、身近な科学の世界より夢とロマンのある科学のほうがいいのではないかと私の専攻した宇宙や地球の科学を中心とした「新しい科学の世界」という講座に衣替えしたのである。

それがうまく当たって、72人の定員を超える受講生が集まったとき、とても嬉しかった。ところが、受講生がさらに増えて、每期、抽選で50人以上もふるい落とされるようになってからは、嬉しさより「つらさ」のほうが強くなった。

「教室を大きなところと替えてほしい」と何度か頼んだが、実現せず、つらい気持ちがつづいたが、やっと昨年の後期から「新しい科学の世界そのⅡ」として「新世界を開いた科学者たち」という講座が新設されて、つらさが消えた。同時に、コーディネーターも辞任したが、幸せなコーディネーターだったと心から感謝している。（以上）

柴田鉄治先生最終講義受講記

〈新しい科学の世界Ⅱ 補講〉

「ウェグナーの『大陸移動説』からプレートテクトニクスの誕生へ」

(2020.1.31)

記録：代表世話人 高橋邦晴

『大陸移動説』を思いついたウェグナーは、様々な調査を行い、自身の仮説を実証しようとした。しかしウェグナーの時代には、大陸を動かすエネルギーの存在と、移動のメカニズムを明らかに出来なかったため『大陸移動説』は忘れ去られた。

再びそれに光を当てたのが、古地磁気学の進歩である。古地磁気学は、岩石に記録された地磁気の極移動を明らかにし、岩石（大陸も）が動いていることを証明した。さらにそこから、大陸と海の下にはプレート（厚さ数十kmの岩盤）があり、そのプレートが動くことで、その上に乗る大陸も移動することを明らかにした。このように古地磁気学の進歩によって、地球の構造と大陸を移動させる原動力が明らかになったのだ（プレートテクトニクスの誕生）。



2017年12月5日

プレートの移動で、まず思い浮かぶのは地震の発生だが、研究者が地震発生周期を考え、「いつ地震が起きてもおかしくない。明日起きるかもしれない」と言うと、私たちはそれを「予知」と受け止め、「警戒宣言」「警報発令」に結び付けようとする。

これは誤った理解だと言える。地震警報を出し、その地域の経済活動をストップさせた場合の損失額を計算すると1日当たり7千億円にもなるから、それに対して責任を負えない地震学者が警戒宣言など出せるはずはないからだ。地震発生を警戒するあまり、私たちは研究者の発言を誤って理解しがちだということを、常に頭に入れておきたい。

柴田 鉄治先生を偲んで (8月23日にご逝去、85歳でした)



先生はアカデミーでは、2007年 講師として初登壇され、2009年より「新しい科学の世界」「いのちの科学」等のコーディネーター及びカリキュラム企画・編成委員として科学関係の講座やワークショップの充実に努められ、2011年から2019年3月まで、副学長としてアカデミーのカリキュラム全般の向上や学務運営にご尽力されました。

講座に情熱を傾けて

かわさき市民アカデミー学長 太田猛彦

かわさき市民アカデミー前副学長の柴田鉄治先生が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



柴田先生のすばらしさは、なんと言ってもコーディネートされた各講座を構成する講師陣の多彩さ、招聘する各講師のレベルの高さだったと思います。それは持ち前の広く深い知識を土台とした新聞記者時代の活躍の広さや朝日カルチャーセンター時代の知己の多さを反映していました。そして、何よりも講座をコーディネートすること自体がお好きでした。

また晩年に近づくに従い人工透析を続けられ、耳もご不自由のようでしたが、それでも講座のコーディネートに情熱を傾けておられた姿が忘れられません。アカデミーが科学系講座も充実している市民大学として有名になっているのは柴田先生のご努力があったことだと思っています。先生にはこれからも多くのアドバイスを頂きたいと思っておりましたが、残念です。改めて先生のご冥福をお祈り致します。

編成講座の延期を見届けながら

科学講座 新コーディネーター：佐藤年緒



柴田先生が最後に編成した2020年度前期の科学3講座は新型コロナウイルス対策で延期になったものの、後期にほぼ同じ形で再開できることになりました。その行方を見届けて安堵されたのでしょうか、炎暑の8月に逝かれました。南極取材や日食ツアーを重ね、平和を訴え続けたジャーナリストの大先輩でもあり、柴田先生らしい宇宙を俯瞰する視点で組まれた講座を少しでも継承できればと考えます。どうぞ宇宙(そら)から私たちを見守りください。

「柴田先生の思い出」

受講生 折居 晃一



先生との最初の出会いは「いのちの科学」の開講にあたりコーディネーター就任依頼に伺った時でした。それ以来、いのちの科学講座・ワークショップの在り方に関して担当理事、代表世話人、また受講生として大変お世話になりました。市民大学の中に科学講座を定着させ得たのはひとえに先生のご尽力の賜物と思います。先生は率直な気質の理想主義者でした。「国境のない、武器のない、パスポートのいらぬ」南極、世界中を南極にしようと熱く語っておられました。また趣味の囲碁についても愉快そうに話されておられたのを懐かしく思い出します。謹んでご冥福をお祈りいたします。

「柴田先生の思い出」

科学講座 担当事務局職員

コロナ禍、柴田先生にzoomでのオンライン講義について伺うと「一堂に会してこそその生涯学習である。」と、集い・対話することの大切さを語られたのが先生との最後の会話でした。深い知識と経験、幅広いネットワークで魅力ある科学講座のコーディネートをしてくださいました。時に科学講座だけでなく私たちに多くのメッセージを残してくださいました。人を愛し、地球を愛し、優しいお顔で珈琲を飲みながら、宇宙や南極のお話をされるお姿が目につかびます。心からご冥福をお祈り申し上げます。

〈柴田先生の経歴〉

1935年東京生まれ。東京大学理学部物理学科卒業。1959年朝日新聞社に入社。論説委員(教育・科学担当)、科学部長、社会部長、出版局長、論説主幹代理、総合研究センター所長を務めた。1995年定年退社後、朝日カルチャーセンター社長、日本科学技術ジャーナ

リスト会議理事を歴任された。南極観測にもたびたび同行して、「国境のない、武器のない、パスポートの要らない南極」を理想と掲げ、「南極と平和」をテーマにした講演活動も行っている。「国境なき南極大陸」(2009 富山房インターナショナル)「世界中を「南極」にしよう」(2007 集英社)他 著書多数

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報部会 編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41 川崎市生涯学習プラザ 3F

電話：044-733-5590 FAX：044-722-5761

問合せメールアドレス：info@npoacademy.jp

ホームページ：http://npoacademy.jp/